



相談支援係
072-941-3365

ICT教育推進係
072-943-5785

研究研修・幼児教育係
072-943-5784

教育センター
Web page は
こちらから



『そだちのねっこ』

～乳幼児期の遊びより～



「先生のまねっこしよ!」「〇〇もできるもん!」

～『やってみたい!』が学びの芽～

2歳児の様子

1月9日、2歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。保育室や担任の先生、クラスの友だちにも慣れ、『自分でできる!』嬉しさを味わっている姿がたくさん見られました。

担任の先生が、小道具のマイクを使って、「おなまえは?」と聞かれています。マイクを向けられると「〇〇です!」と少し照れながらも言うことができると、とても嬉しそうで、満足そうな表情をしていました。また、先生と同じマイクを持ち、先生役をすることを楽しんでいる子どももいました。



「お外へ遊びに行くよ～」という言葉に、ベストや帽子、靴下など園庭へ行くための準備が始まりました。すぐに「やって～」と言うのではなく、やってみようとする子どもたちの姿が印象的でした。担任の先生は、せかすことなく、「できそう?」「少し手伝おうか?」と子どもの様子に応じて声をかけられていました。全てやってあげるのではなく、『自分でできた!』が味わえるようにそっと支えられていることがわかりました。



玄関で靴を履こうとして、無言で靴下を指さして訴えている子どもがいました。「どうしたの?」と聞くと、やはり靴下を指さして困り顔をします。「あっ、かかとの部分が上になってるね～」「自分で履いたんだ!」「気持ち悪いことに気づいたんだね」と、状況と気持ちを共有してから、靴下の履き替えを手伝いました。その後、自分で靴を履き、

元気よく園庭へ行きました。

園庭では、三輪車や砂場遊び、ボール遊び、ままごと遊びなど、自分のしたいことを見つけて遊び始めていました。先生の真似をして、スコップで線路をひき、「できた!」と喜んだり、偶然にもスコップに砂が入って「はいた!」と驚いたりしていました。また、ままごとコーナーでは、「お芋を混ぜてるよ」「先生も手伝って!」「こうするのよ」と、自分の遊んでいることを伝えようとする姿も見られました。土山をおうちに見立





てて遊んでいる子どもに、担任の先生が「ここは何ですか？」ときくと、「こちらはベットです」「こちらはお風呂です」と嬉しそうに答え、「入ってもいいですか？」の問いには、「いいですよ」「ちょっと待ってください。お湯をいれますね」など、言葉のやりとりも楽しんでいました。

大好きな友だちもでき、「今日のお迎えはパパ？」「そうなの？」「これ、貸してあげる」「あっ、鼻水出てるよ」など、友だちとお喋りしたり、傍にいたりすることに居心地のよさを感じている子どももいました。

月齢差はありますが、2歳児の子どもたちは語彙数が増加し、2語文、3語文でやりとりもできるようになり、それがまた楽しくなる時期でもあります。保育者は共感だけでなく、質問したり、言い換えたりしながら、子どもの言葉が豊かになることを意識してかかわっています。

さらに、やりたがる、しゃべりたがる、遊びたがる、同じことをしたがるなど、いろんな『こと・もの・ひと』への興味・関心が強くなり、たくさんの経験を通して学んでいきます。

「自分の名前が言えた」「帽子が被れた」「靴が履けた」や、「スコップで砂がすくえた」「ボールを蹴られた」「穴に入れた」「〇〇を見つけた」など、『できた！』が嬉しい瞬間を生活や遊びの中でたくさん経験しています。そのためにも、「先生、みて！」と、大人に伝えたいようになるような豊かな体験ができるように遊び環境を考えていくことも保育者の使命であると感じました。

♪シンキングタイム♪

保育室で、ヨーグルトのカップを積み重ねて遊ぶ子どもがいました。言葉は発していませんが、『できた！すごい！』と言わんばかりの表情をしています。みなさんなら、この子どもにどんな言葉をかけますか？また、どんな援助をしますか？なぜ、その言葉かけや援助をしようと思いましたか？

正解は一つではありません。みなさんの言葉かけやかかわりによって、子どもがさらに遊びを楽しもうと何かを伝えてきたり、「もう一回やりたい！」につながったりして、なんらかの学びが芽生えた時こそが正解かもしれません。



幼児教育アドバイザーフォローアップ研修⑤

研修の評価・反省

幼児教育アドバイザーによる企画研修について

- ・振り返り
- ・個人ワーク
 - 幼児教育アドバイザーによる企画研修はどうでしたか
 - あなたはこの研修でどのようなことを学びましたか
- ・グループワーク

令和8年1月15日(木)午後3時～午後5時に幼児教育アドバイザーフォローアップ研修⑤を行いました。講師は本センター 天野 千晶 所長補佐で、研修テーマは「企画・立案④研修の評価・反省」です。

<受講者感想>

- ・アドバイザーとしての役割を改めて感じさせられ、自園や市全体の保育力アップにつながられるようになりたい。また経験年数の少ない職員の人材育成や学習会などの

運営を充実させられるよう、今回の研修で学んだことを実践に活かしていきたい。

- ・振り返ることで、学んできたことを深めることができた。その深めたものを今後の自分の実践のタネとして大事にしていきたい。また、来年度に向けて前向きな気持ちで研修を終えることができた。この気持ちを次年度からの実践のエネルギーにしていきたい。
- ・立場が変わると視点も変わり、やってみたいことも変化してきた。八尾市内の全ての就学前教育の質的向上に取り組んでいきたい。

教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は1月から2月に配架した雑誌の誌名と目次の一部と書籍の内容を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会）2月号

- ・特集1 多様な子どもたちを包摂する学校教育
- ・特集2 夜尿症への学校生活の支援

「こころの科学」（日本評論社）SPECIAL ISSUE 2026

- ・推し活の心理臨床 サブカルチャーと聖地の視点から

「推し」という言葉がいつから出てきたものか、気にはなっていましたが、ハッキリ確かめることもなく過ごしてきました。それでもなんとなく世間の文脈から「すきなもの」ぐらいに思ってきました。それが「こころの科学」に取り上げられているのは驚きです。言葉は時代とともに変化していくものだとは思っていましたが、私が気づかないうちに登場した「推し」という言葉が市民権を得て、心の専門家である大学の先生方が論じられています。ネット検索によると、“「推し」という言葉は1980年代頃のアイドルオタク界隈で「推薦する」から派生し、「推しメン」として使われ始め、90年代後半のモーニング娘。、2000年代中盤以降のAKB48などを経て、2010年代後半から一般化し、2021年には「推し活」が新語・流行語大賞にノミネートされるほど定着しました。”とのこと。流行に疎い私は2010年代後半に中学生が使っている言葉から知ったような気がします。筆者の先生方は、ご自分の「推し」について語られたのち、「推し」の何たるかを分析されています。概ね肯定的な評価です。というか、「推し」は推そうとして推しているものではなく、「推さざるを得ない」「突然降ってくる」類のものとして語られています。「推し」の話を通じてコミュニケーションが深まり、結果的に心の回復につながったような話もあります。ただ私自身は、この雑誌を読んで「推せない自分」に気づかされました。なんにでもすぐ興味を持ち、それなりに推すのですが、時期が過ぎると興味が薄れてしまいます。そんな私が最近推しているのがNHKの朝ドラです。今は「ばけばけ」を推しています。主人公のモデルは小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の妻、小泉節子さんです。このところ出雲大社・出雲文化には興味があり、資料を買い求めたりしていました。ドラマの舞台が出雲なので見ないわけにはいきません。また主題歌を歌っているのがハンバートハンバートで、以前からやや推しの夫婦デュオだったので、さっそく主題歌「笑ったり転んだり」のコード譜を探して練習していました。ちなみに朝ドラの主題歌は毎回コピーしています。歴代朝ドラのタイトルを見ると私にとって興味あるものばかりです。半年でテーマが変わっていくので、すぐ飽きてしまう私にはちょうどいいのかもしれません。ということで、「朝ドラ推し」の自分に気づきました。（葎仲）

「道徳教育」（明治図書）2月号

- ・特集 なぜ、あなたの道徳授業は退屈なのか

こんな特集を組まれるのは失礼な話ですね。「あなたの道徳授業」は「退屈」です、という前提ですから。「私の道徳授業は退屈じゃない」と思われる先生は興味を持たれないかもしれません。ただし、副題の1つめを見ると「3つのポイントで見えてくる！退屈な授業と熱中する授業の違いとは？」というのがあります。「退屈であるかないか」を授業方法で

分別しようというのです。これがまた、不思議な話で、退屈かどうかは最終的には児童生徒が感じるものだと思いますが、ここでは5人の先生方が、それぞれ3つのポイントで「退屈」になるであろう道徳授業のやり方と、「熱中する授業」へ改善するにはどうするすればいいかについて述べておられます。ぜひご一読いただいて、自分の授業が「退屈」になりがちな授業なのかどうか確かめていただくのもいいかもしれません。以下15のポイントの中から気になったものを紹介させていただきます。A先生「退屈な授業は、すべて教科書教材を使い、熱中する授業は、開発教材を効果的に活用する。」、B先生「退屈な授業は『反省迫るだけ』であり、熱中する授業は『出会いと驚き』である、C先生「退屈な授業は、教師がしゃべり続け、熱中する授業は、子どもが主体となって授業に参加し、心と体と頭が動く。」、D先生「退屈な授業は、脱線を許さず、熱中する授業は、脱線を楽しみながら学びを深める。」E先生「退屈な授業は、子どもがわかっているような当たり前のことを問い、熱中する授業は、子どもたちにとって新しい学び（気付き）に繋がるような、意外なことを問う。」です。副題の2つめは「退屈な道徳授業から抜け出すチェックリスト」で、副題の3つめは「退屈な授業の典型パターンと改善ポイント 教材別 退屈な授業を打破するチャレンジアイデア」です。自分の道徳授業が「退屈」かもしれない、と思われる先生はぜひご一読ください。

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育研究連盟編集・東洋館出版社）2月号

- ・第1特集 「遊びは学び」学校で思いっきり遊ぶ！
- 第2特集 特別な配慮を必要とする子どもたちが、その可能性を最大限に伸ばすための指導・支援及び、将来の自立と社会参加に必要な力を育成するための適切な指導・支援をめざして

「初等教育資料」（文部科学省編集・東洋館出版社）2月号

- ・特集Ⅰ 学習指導要領実施状況調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実②
- ・特集Ⅱ [音楽] 我が国や郷土の音楽の指導の充実

「中等教育資料」（文部科学省編集・学事出版）2月号

- ・特集 [高等学校] 各教科等を交えて語り合う⑤～各教科等横断的な取組の充実～

教育科学「国語教育」（明治図書）2月号

- ・特集 「論点整理」から読み解く2030年からの国語授業

昨年9月に次期学習指導要領策定に向けた「論点整理」が公表されました。①主体的・対話的で深い学びの実装、②多様性の包摂、③実現可能性の確保、3つの方向性として示されました。この方向性は国語科だけのものではないので、下記のように社会科でも「多様性を包摂する学習デザイン」が特集されています。この方向性に沿って検討が進められ、令和8年度中に中央教育審議会として「答申」が取りまとめられるそうです。「巻頭特集」の中で文部科学省初等中等教育局教育課程企画室長の 栗山 和大 氏は①～③の方向性について解説されています。①は現行の学習指導要領で示されたものですが、理念や主旨が十分浸透したとはいえ、次期学習指導要領にも引き継がれます。また、分かりやすく、使いやすい学習指導要領とするため、構造化・表形式化・デジタル化が進められます。②については「多様性を個人だけでなく、社会の力にも変えたい」との考えを述べられています。その中で「裁量的な時間」「調整授業時数制度」「教育課程柔軟化サキドリ研究校事業」などについて言及されています。③では、①②の実現のために「教師に過度な負担・負担感が生じない、持続可能なあり方を追求し、教師と子どもの双方に、教育の質の向上のための時間的余裕である『余白』を創出することで、豊かな学びにつなげる必要性があります。」と述べられています。具体的には「必要に応じた学習内容の精選、教科書の分量の精選等を図

るとともに、週28コマなどへの週当たりの時数の見直し、標準授業時数の弾力化を通じた真に必要な授業時数の設定等が示されています。」とのことです。詳しくは“文部科学省”“論点整理”のワードでインターネット検索すると、「論点整理」を読むことができます。

教育科学「社会科教育」（明治図書）2月号

- ・特集 内容と方法から考える！ 多様性を包摂する学習デザイン

「新しい算数研究」（新算数教育研究会編集・東洋館出版社）2月号

- ・特集 学習指導要領改訂へ向けて今後取り組むべき課題と展望